



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン
RIテーマ ロータリーに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1230回 例会
2015.5. 22(金)晴

司会:岡 良森君 指揮:山口辰哉君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ



例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 矢岸貞夫君



皆さん今晚は、本年度も残すところあと僅かとなりました。次年度に向けて、地区のITセミナーや会員増強セミナー等が予定されておりますし、我々クラブも準備が進められていますので、次年度担当の委員長の皆さん頑張って下さい。又、本日は山口辰哉くんのゲストで「みしまびと」プロジェクトチームの川村さん、山田さんが説明及び制作のための協力要請にまいりました、皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

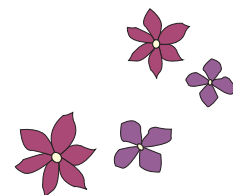
さて話は変わりますが、近隣の葦山町にある葦山反射炉が世界遺産の候補にあがっています。5月の連休には通常の5倍もの観光客が押し寄せ、地域の活性化に繋がっています。

反射炉とは、鉄鉱石から直接製造した不純物を多く含む銑鉄という鉄を溶かして優良な鉄を生産する為の炉です。銑鉄を溶かす為には千数百度の高温が必要ですが、反射炉の場合、溶解室の天井部分が浅いドーム形となっており、そこに熱を反射させ、銑鉄に集中させることでその高温を実現する構造となっています。そこから、反射炉という名称が与えられました。溶かした鉄は、鑄型に流し込んで大砲等に加工されました。実際に稼働した反射炉が残っているのは、世界でも葦山反射炉だけです。1864年に使用が中止されるまで数多くの西洋式大砲が鑄造されました。これらの大砲は品川台場に28門配備されたと言われてい

ます。世界遺産に登録された暁には、もっと多くの観光客が訪れることでしょう。三島市にも良い影響があるでしょう、大いに期待したいものです。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

川村結里子さん(山口(辰)君のゲスト)
山田 太壺さん(")



出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	22/34	64.71%	31/34	91.18%
今回	25/36	69.44%	会員総数	38名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(司)君、内田君、太田君、大房君、岡君、小島君、小林君、篠木君、服部君、望月君、米山君

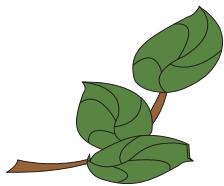
卓話

みしまびとプロジェクトより
株式会社結屋 川村結里子さん
常林寺 山田 太壺さん

映画作りを通して「三島の未来をつくる人をつくる」、みしまびとプロジェクト。

三島・そして近隣の人々が、年代、性別、所属、様々な垣根を越えて、企画段階から1つの映画をつくる行程を通じて集い、交流し、共に活動しこれからの地域の未来のために想いをつなぐプロジェクトです。

今回は卓話のお時間を頂き、みしまびとプロジェクトを紹介する予告編ムービーの上映を行いながら、皆さまへみしまびとプロジェクトとは何かを知って頂きたく想いを伝えさせて頂きました。
ありがとうございました。



スマイルボックス

兵藤弘昭君:ドローンで逮捕された少年は無職とされていたが、ドローンを買うお金はどこから出ているのかと思ったが「15歳で配給業をやっている」と答えているという。ユーチューブに投稿して広告収入を得る新しいなりわいのありかたであると感じました。

勝又佳員君:4月から静岡本社呼び出しが多く欠席多くてすみません。本日も中途退席させていただきます。

加藤正幸君:市職員より配布頼まれました。三島生まれ大岡信の案内を入れながらの「ことばマップ」をポケットに入れました。何かお役立て下さい。

ROTARY NEWS

タブレット端末を利用した教育支援

フィジー第3の島、タベウニ島。豊かな風土に恵まれ、美しい夕暮れや滝が有名なこの島は、通称「garden island」（庭園の島）とも呼ばれています。島には多くの観光客が訪れますが、地元の人たちは観光客との交流を除いては、ほとんど外部との接触なく生活しています。主な雇用主は政府で、そのほかの仕事は農業がほとんどです。島で学校に通う学生のうち、高校を卒業するのは30%、大学に進学するのは10%に留まっています。また、住民は、貧困と不十分なインフラにより、現代のテクノロジーを十分に利用することができません。タベウニ島のブカレブ高校に通う17歳、アセナカ・セパさんは看護師になることを夢見ており、彼女のクラスメート、ライセニア・キディアさんは、海洋生物学を学びたいと考えています。そこで生徒たちがもっとテクノロジーを学んで活用し、大学へ進学したり、就職できるよう、タベウニ・ロータリークラブが立ち上がりました。「コンピューターのスキルをしっかりと身につけて、社会に出てもらいたい」と話すのは、同クラブ会員のジョフリー・エイモスさん。オークランド技術大学、ニューマーケット・ロータリークラブ、ボタニーイースト・タマキ・ロータリークラブ、エラースリー・サンライズ・ロータリークラブ（ニュージーランド）と協力し、タベウニ島のロータリアンは、ブカレブ高校とニウサワ・メソジスト高校に70台のタブレット端末を寄贈するプロジェクトを実施しました。第9920、9970地区からの資金提供、さらにロータリー財団からのマッチング・グラントも受けたプロジェクトです。

タブレット端末の使い方について研修を担当したのは、カナダ出身で、ニュージーランドへ留学経験のあるロータリー奨学生、ケルシー・コックスさんです。「この小さな端末から、かなりの情報を得ることができるので、教室の外に広がる広い世界について学ぶのに最適です」とコックスさんは話します。

使い方の研修では、アプリを通じて細胞の構成について学んだ生徒たち。「これだけコンパクトな端末から教科書100冊以上の情報に手軽にアクセスできます。実際に画像を見ながら学ぶことができたので、細胞がどのようにつくられているのか知ることができました」とセパさん。キディアさんも、タブレットを使って学ぶことによって、大学進学への準備ができると期待を膨らませます。

寄贈されたタブレットには、事前にさまざまな教育関係のアプリがダウンロードされているだけでなく、歌を録音したり、ビデオを撮影できる機能が備わっています。これらの機能を使ってフィジーでの生活や文化を紹介するビデオを作成するのも目的の一つです。

このプロジェクトの目的について、「地域社会の将来をより良いものとするために、どんなことができるかを地元の人たち自身が考える応援をすること」と話すコックスさん。より良い地域社会への変化はすでに始まっています。エイモスさんによれば、2014年のテストで、生徒たちはすでに以前よりも高い成績を収めているとのこと。コンピューターのスキルも高まっているため、大学への進学、就職の可能性もさらに広がっています。